11/1
Fri

学　校　型　**佐久市立浅科中学校**

共同研究者　**北澤嘉孝**
（信州大学 教育学部附属長野地区 統括長）

「新たな自分の問いを生み出す探究総合」

― 年間50時間の探究総合を通して ―

「正解のない問いの追究」「教師の支援の在り方が『教師自身の探究そのもの』」

身近な「ヒト・モノ・コト」について自らの課題を見つけ出し、探究のプロセスを踏まえ、主体的・協働的に解決していく力を育てたいと願い、各学年テーマを以下のように統一しました。「ふるさとに触れる（１年）」「ふるさとで学ぶ（２年）」「ふるさとへ伝える（３年）」、１学期の学年毎の取組から次のような課題が見えてきました。①「調べて終わり」の生徒への教師の言葉がけ（全学年）②外部の人とのつながりの構築（１年）③生徒の追究・思考・問いを教師がどれだけ語れるか（２年）④生徒の興味関心が多岐にわたることへの支援や対処の方法（３年）、これらは「教師自身の課題」であり「教師自身の探究そのもの」ともいえます。これら１つ１つの課題を教師と生徒・生徒同士・「ヒト・モノ・コト」等様々な対話によって乗り越えていくことに取り組んでいきたいと考えます。

その補助資料として全校が共有できる「スプレッドシート」の活用を開始しました。「学びの振り返り」「スパイラルの段階」「施設名」等を生徒が入力することで、全校がシート上で情報を共有します。情報を共有することで、生徒の取組を見える化し、次の支援に繋げていくことを試みています。また、生徒同士のかかわりに発展していくことも期待しています。

１学期は以下のように取り組んできました。

・身近な地域の課題の発見とグループでの追究（１年）
・保護者への「働くインタビュー」に関する「問いバンク」（２年）
・「校外探究願い企画書」で校外活動の質を向上（３年）
・地域の支援体制の構築に着手（全体）

等が挙げられます。「実際に活動し、人の考えに触れ、自分の生き方を考え直せる」生徒の育ちを願い、実践を積み重ねていきたいと思います。公開日には、参会者の皆様と生徒の具体の姿を通して「新たな問いを生み出す」探究総合の在り方について語り合うことができれば幸いです。

共同研究者 北澤先生から

「教師自身の探究」と位置付け、試行錯誤しながら進めてきた取組が、「手探り」から「手応え」に深まってきています。教師が願う生徒の姿と実際の姿とのずれに着目し、教師の関わり方について議論を重ねる中で、生徒の学びの変容を見抜く力もついてきています。浅科に根付いた探究にこだわり転がり出した実践を、多くの皆様にご覧いただけることを願っています。

～日 程～

① **受付**　12：00～13：10
（昼食持参の参会者の皆様に会場を準備します）

② **公開授業**　13：15～14：05

③ **開会行事**　14：15～14：25

④ **授業研究会**（研究発表含む）
14：25～15：25

⑤ **講演会**　15：35～16：35

⑥ **閉会行事**　16：40～16：50

【訂正とお詫び】
vol.135、３頁、浅科中学校の本文１行目を以下のように訂正しお詫びいたします。
（誤）年間50時間にも及ぶ「探究総合」が、　（正）全学年、年間50時間の「探究総合」が、